



第 45 回全国大会終了報告

担当者： 全国大会委員会 委員長 小尻智子（関西大学）

2020年の教育システム情報学会の全国大会を、9月2日(水)から4日(金)の期間、オンラインで開催いたしました。288名もの多くの方にご参加いただきました。まずは、オンライン大会の実施方法の検討から当日の運営までご尽力いただきました大会委員会の皆様に、心より感謝申し上げます。また、シンポジウムやプレカンファレンス、企画セッションなどの企画をオーガナイズして大会を盛り上げてくださった皆様、座長をお引き受けいただきました皆様に、心よりお礼を申し上げます。

本大会は広島工業大学での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3月にオンラインでの実施に変更いたしました。一般・企画セッションはZoomで、特別講演・シンポジウムなどの規模の大きいイベントはZoomのWebinarで実施いたしました。他学会ではあまり見られない試みとして、インタラクティブセッションにRemoを採用することにいたしました。Remoは仮想空間を区切った個別の部屋単位で会話できるとともに、空間全体の参加者を見ることができるというツールです。参加者自身が希望する発表を聞けるだけでなく、他の参加者がどの発表を聞いているかということが把握できるため、参加者の皆様にインタラクティブセッションの会場にいるという感覚を得ただけの事を期待して導入いたしました。Zoomと比較すると認知度が低いツールのようなので、スムーズに利用していただけると心配していましたが、幸い質問もほとんど出ず、好意的な意見もいただけてほっとしています。

さて、本大会のテーマである「学びのサステイナブル化に向けた教育システムの現状と未来」を決めた当初は、コロナの存在は少なくとも国内ではありませんでした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、私たちのすべてが学びのサステイナブル化の困難さを実感することになりましたので、タイムリーなテーマとなりました。テーマに関する企画として、特別講演では学びのサステイナブル化に対するユネスコの取り組みを、文部科学省 日本ユネスコ国内委員会副事務総長の亀岡様にご紹介いただきました。最終日の公開シンポジウムでは、「コロナ後の大学教育 ～大学教育のブレンディッド化の展望～」というテーマのもと、文部科学省高等教育局専門教育課科学・技術教育係長の河本様、山梨大学大学院総合研究部工学域・教授の埴先生、大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部・教授の村上先生に、教育のデジタルイゼーション、ブレンディッド教育、FDの立場から今後の大学のブレンディッド化の展望とそれを支えるために必要な事柄に関して議論していただきました。この公開シンポジウムには学会外からも含めて232名もの方にご参加いただきました。多くの質問をいただき、今後の大学教育に関する皆様の関心の深さが感じられたシンポジウムとなりました。

来年の全国大会は、再度、広島工業大学での開催予定です。実行委員長の松本慎平先生をはじめ、中国地方の先生方には2年連続でお引き受けいただき、本当に感謝しております。来年こそは皆様とface-to-faceでお会いし、お好み焼きやカキ、穴子に舌鼓をうちながら、熱い議論ができることを信じて、関係者一同準備に努めたいと思っております。



第 45 回全国大会奨励賞審査結果

担当者： 大会奨励賞審査委員会

大会奨励賞は、教育システム情報学および関連分野における学問の発展を奨励するため、その貢献が顕著である新進の研究者に贈呈するものです。受賞時に本学会の会員(入会申請中を含む)であって、40歳を越えていない、または、本学会入会時から10年を経過していない方が対象となります。また発表論文の第一著者であり発表時において登壇者であること、直近の過去2回の大会でこの賞を受賞していないことも条件となります。

大会奨励賞審査委員会により論文審査・発表審査を行い、本大会の審査対象論文 62 件(口頭発表の部：47 件、インタラクティブ発表の部：15 件)から、以下の論文の各第一著者を大会奨励賞に選定いたしました。

(以下は講演番号、発表題目、著者(○は受賞者)、所属の順)

<口頭発表の部>

C1-3 ICTを活用した発音の形成的評価を導入した初修中国語授業の設計、実践と評価

○篠塚麻衣子(1, 2), 合田美子(2), 鈴木克明(2)【(1)東京都立大学, (2)熊本大学大学院】

D2-4 算数文章題における式の導出過程の三角ブロック組み立てプロセスとしての可視化

○山口剛司, 犬丸拓磨, 岩井健吾, 平嶋宗, 林雄介【広島大学】

B3-4 左官職人技能継承構築に向けた習熟過程の指標化の試み

○大江孝明(1), 後藤田中(1), 米谷雄介(1), 萩原周(2), 川井翼(2), 神田亮(1), 八重樫理人(1), 林敏浩(1), 蟹澤宏剛(2)【(1)香川大学, (2)芝浦工業大学】

<インタラクティブ発表の部>

SP-7 神経活動同期性に基づく道徳的対話における伝達感評価尺度の構築

○下田香織(1), 田和辻可昌(2), 松居辰則(3)【(1)早稲田大学大学院, (2)早稲田大学グローバルエデュケーションセンター, (3)早稲田大学人間科学学術院】

以上 4 件



学生研究発表会優秀発表者の学生特別セッション参加報告

担当者： 人材育成委員会

本学会は若手研究者の育成に力を入れており、学生研究発表会の優秀発表者と地区代表者に全国大会で発表いただく機会として「学生特別セッション」を設けています。

昨年度の学生研究発表会は全国9地区において開催され、優秀発表賞／優秀ポスター賞として計30名が選ばれました。そして、そのうちの9名が2020年度全国大会の学生特別セッション（学生研究発表会の論文が大会論文集に再掲）で発表しました。ご存じのとおり、新型コロナウイルスの影響で全国大会がオンライン開催となり、学生特別セッションはWeb会議システムを使って実施されました。

学生特別セッション発表者には、「全国大会優待」として全国大会参加費と論文掲載費（学生特別セッション分）が免除されます。昨年度まではこれらの免除に加えて懇親会参加費無料の特典もありましたが、今年度はオンライン開催に伴って懇親会が中止になったことで、表彰式で受賞者氏名を読み上げさせていただくとともに、記念品（タンブラー）を贈呈することにしました。

以下に、学生特別セッション発表者の参加報告を掲載します。

この度は昨年度に引き続き、優待特典の利用により第45回教育システム情報学会全国大会に参加させていただきました。コロナ禍で対面発表が厳しい状況の中、リモートでの発表の機会を設けていただき、誠にありがとうございました。インタラクティブセッションでは、多くの先生方から質問やご意見をいただき、研究に対する幅広い視点や知識を得ることができました。今回ご指摘いただいたこと、学んだことを生かして、今後の研究活動に取り組んでまいりたいと思います。指導教員をはじめ、今大会でお世話になった方々に厚く御礼を申し上げます。

（公立千歳科学技術大学大学院 修士2年 阿部 晃大）

この度は、全国大会という異なる視点を持つ研究者の方々の前で発表する貴重な機会を頂きまして、ありがとうございました。発表後の意見交換の際、多くの方から共感していただき、自身の研究の価値を伝えることができた達成感と、現在の研究アプローチが社会のニーズを捉えられているという実感を得ることができました。この大会の経験を通して、プレゼンテーションや自身の研究に対する自信ができました。今後は、研究活動により一層、邁進してまいります。

（香川大学大学院 修士1年 植松 祐斗）

優秀発表の特典により全国大会に参加させていただきました。コロナ禍により大会運営が困難な中、参加できたことを喜ばしく思うとともにお世話になった方々に御礼を申し上げます。本大会の発表準備を行うにあたり、自身の研究に向き合うことで不十分な点に気付かされることも多く、発表では皆様からのご意見を頂くことで、新たな課題の発見と手がかりとなるヒントを得ることができました。また、他の学生・先生方の発表を拝見させていただくことで、自身の発表に不足している点や考察の過程など様々な部分で大変勉強になりました。今回の経験を生かし今後の研究に取り組んでいきたいと思ひます。このような機会を与えて頂いたことに感謝致します。

(高知大学大学院 修士1年 小森 公兵)

この度は、全国大会での発表という貴重な機会を頂き、ありがとうございます。さまざまな分野で活躍されている皆様から多様な視点でご意見を伺うことができ、自身の研究の強みや今後の課題に改めて気づかされた発表でした。この学びを今後の研究の発展に生かしていけるよう、精進していきたいです。オンラインでのインタラクティブ発表という不慣れな状況での発表に不安がありましたが、貴重な経験ができ、学びの深い充実した時間となりました。このような環境を作ってくださった本大会に関わる皆様に感謝申し上げます。

(東京学芸大学 学部4年 佐佐木 穂花)

この度は、全国大会での発表機会を頂きまして、ありがとうございます。全国の先生方から様々なご意見、ご指摘を頂くことができ、自身の研究と向き合う貴重な機会となりました。また、発表を通じて様々な方から、研究の今後の展望について、ポジティブなフィードバックを頂き、今後の研究活動のモチベーションにもつながりました。今回の経験で学んだことを研究成果に繋げられるよう、今後も研究に真摯に向き合い、精進していきたいと思ひます。最後に、運営の方をはじめとした、今大会でお世話になった方々に厚く御礼を申し上げます。

(早稲田大学大学院 修士1年 下田 香織)

この度は学生特別セッションの参加という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。今回の全国大会は、オンラインでのインタラクティブセッションでの発表ということになりましたが、昨年の全国大会と同様に、皆さまからの貴重なご意見を頂くことができ良かったと思ひます。また、他の学生の方々の発表から良い刺激を貰うことが出来ました。本大会で得られたこれらのことを今後の研究に活かしていけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

(電気通信大学大学院 修士2年 菅原 歩夢)

この度は特典により全国大会への参加という貴重な機会をいただき、ありがとうございます。私は、学会発表では自分の研究の成果発表をするだけでなく、質疑応答など交流を通して様々なご意見や視点に触れ、ご助言をいただくことで自分の研究をブラッシュアップしていくための場であると考えています。今回の全国大会ではまさに今後の研究に繋げられるようなご意見を多数いただけて、非常に刺激になりました。今回学んだことを生かして今後も研究に精進して参りたいと思ひます。

(武蔵野大学 学部2年 新田 拓真)

この度は全国大会への参加という貴重な機会を頂き、誠にありがとうございました。オンラインという今までとは違った発表方法でしたが、その中でも専門分野や年齢、立場の異なる多くの方から、様々なご意見を頂くことができました。数々のご質問も頂き、自分の研究に対する思い至らなさを感じる場面もありながら、興味を持っていただけることへの感謝を忘れず研究を進めていく必要があると感じました。今回の経験を活かし、多様な視点を大切に、より一層今後の研究活動に励みたいです。

(広島大学大学院 修士1年 藤田 茉佑)

この度は、全国大会への参加という貴重な機会を戴き、ありがとうございました。双方向型のオンライン発表を行うのは今回が初めてで、とても緊張しましたが、多くの先生方からシステム開発やシステムの汎用化に関するご意見・ご質問をいただき、大変勉強になりました。また、他の方の発表を拝聴することで、新たな発見もあり、良い刺激になりました。今回は、すべてオンラインでの参加ということで不安もあったのですが、参加された皆様方とオンラインでもリアルタイムに意見交換できるという、とても有意義な経験を行うことができました。今後、この経験を生かして、研究に取り組んで参ります。

(大阪教育大学 学部4年 山本 望実)

人材育成委員会では、学生研究発表会、全国大会学生特別セッションを継続していくとともに、今後も若手育成を活性化させる企画を検討していきます。



第4回研究会開催案内

担当者： 曾我 真人（和歌山大）、長谷川 忍（北陸先端大）、
柏原 昭博（電通大）、小尻 智子（関西大）、松浦 健二（徳島大）

- テーマ：スキルや経験に関わる学習支援法や支援環境／一般
- 開催日時：2020年11月14日(土)
- 開催場所：オンライン開催
- 発表申込締切：2020年9月24日(木) (締め切りました)
- 原稿提出締切：2020年10月15日(木)

■趣旨：

本年度第4回研究会は、「スキルや経験に関わる学習支援法や支援環境／一般」のテーマで発表を募集いたします。

スキルや経験は、自身の身体動作や行動と結びついて記憶されています。それは、五感と結びついたイメージ的な記憶であったり、力触覚と結びついた身体知であったりします。それらは、努力すれば形式知で表現が可能なものから、本質的に形式知での表現が困難なものまで多岐にわたっています。このため、スキルの学習支援については、形式知化することにより形式知の学習支援法と同様な手法が有効な場合もあれば、形式知化が困難なものについて形式知の学習支援とは異なった支援法が有効な場合があります。そのような、形式知の学習法をスキルや経験の学習に応用した事例、また、独自のスキルの学習法を試みた事例も本テーマの発表事例となります。

一方、ここ2～3年で、全身と手指のモーションキャプチャを統合的に行える安価なシステムや、様々な安価で高性能な深度センサ、さらには、HMD ゴーグルと手に持つハンドコントローラと、そのモーションキャプチャがセットになって、VR空間とインタラクションが容易に可能になる安価で高性能なシステムも普及してきました。これらの機器を使用すれば、新しい学習支援法や学習支援環境を構築できる可能性があります。ここにあげた機器に限定せず、新しい機器を用いたスキルや経験の学習支援システムは本テーマの発表事例となります。

また、COVID-19の対応策として、各大学ではTeamsやZoomを利用したネット配信型授業を行っていますが、それらの中で、スキルや経験に関連したオンラインでの授業の実践事例も本テーマの発表事例となります。

こうした状況を踏まえまして、本年度第4回研究会は、「スキルや経験に関わる学習支援法や支援環境／一般」のテーマで発表を募集いたします。「スキルや経験に関わる学習支援法や支援環境」には直接関係ない発表内容であっても、一般発表として募集します。

- 原稿提出は、下記、「申込者ログイン」よりお願いします。

申込者ログイン <https://iap-jp.org/jsise/course1/login.php>

研究報告執筆要領：

<https://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf>

研究報告見本：

<https://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf>

研究報告ひな形：

<https://www.jsise.org/society/doc/sample.docx>

オンライン講演申込・原稿投稿方法：

<https://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf>

■参加申込および参加費等：

研究会の発表者、共著者、参加のみの方を問わず、全員の方に事前に参加申込の登録をお願いいたします。

登録していただいた方へは、第4回研究会の開催用 URL(ZOOM)をお送りいたします。

事前参加申込の登録を行う方は、以下の URL より行ってください。

<https://bit.ly/3bwdBcV>

なお、研究会への参加は無料ですが、発表者の方で研究報告の年間購読をされていない方には、当日分のオンライン研究報告集の購入(1,000 円)をお願いしております。詳しくは以下の Q&A を御覧ください。

<https://www.jsise.org/society/faq.html>

上記に該当する方および研究報告の購入を希望される方は、上記事前参加申込 URL より購入希望の旨を入力し、記載されている振込先口座情報に従って振込を行ってください。

アクセス方法については、研究報告の公知日以後にご登録いただいたメールアドレスにお知らせいたします。

なお、年間購読を希望される方は、次項「研究報告について」を参照してください。

■研究報告について：

研究報告は電子化されています。年間購読をお申し込みの会員の方は、研究会開催日の約 1 週間前から会員専用マイページで閲覧できます。非会員の方や、年間購読を申し込まれていない方で購入を希望される方は、上記事前参加申込を通じてご連絡ください。

なお、年間購読(4,000 円)をお申し込みいただくと、年 6 回の定例研究会と 1 回の特集研究会の計 7 回分の研究報告を読むことができます。申込方法等については、以下のページをご覧ください。

<https://www.jsise.org/utility/information/20160222.html>

■お問い合わせ先：

曾我真人（和歌山大学，第4回研究会担当委員）

E-mail: [jsise.kenkyukai4\[at\]gmail.com](mailto:jsise.kenkyukai4@gmail.com) ([at]の部分は、半角の @ に変えて下さい)



学生研究発表会発表募集（第1報）

担当者： 人材育成委員会

今年度も学生研究発表会を開催する予定です。開催方式を含め、スケジュールの最新情報ならびに申込み方法は、今後、学会ウェブページにて更新していきます。皆様の積極的な参加・発表をお待ちしております。全国大会との連携企画も検討しております（特典内容は未定です）。

申込み期限は1月下旬、発表原稿提出は2月始めを予定しております。



2022 年度発刊 特集号論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

「 Society5.0 に向けたオンライン学習および AI・数理・データサイエンスと
人材育成支援に関わる教育システム 」

論文投稿締切：2021 年 6 月 1 日(火)（予定）

2022 年 4 月 1 日 発行（予定）

新型コロナウイルスへの社会的対処として、サイバー空間の積極的な活用がなされています。本特集号では、転換が加速する「Society5.0 時代に向けた教育システム」に関する論文を募集いたします。「Society 5.0」では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させるシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が提唱されています。新型コロナウイルスの影響下でのオンライン学習の実践は、まさに Society5.0 社会に向けた経験知を醸成しています。フィジカル空間に主軸があった学習活動がサイバー空間にも広く展開され、学習履歴のビッグデータ収集・蓄積・分析が加速することで、フィジカル空間での学びに対しても新しい価値創造の機運が高まっています。そのような分析に携わる AI・数理・データサイエンスに関わる知識とスキルを身に着けた人材育成も急務であり、それに関わる教育システムも、新しい社会への転換に強く寄与するものです。

1. 対象分野

開催延期となった東京五輪に向けたスポーツテック導入に基づく教育（トレーニング）、また自治体では、コロナ感染の対処も含めオープンデータを活用した災害・防犯教育のシビックテックも見られ、幅広い分野の教育にレジリエントな社会の実現に向けたデジタルトランスフォーメーション(DX)が期待されます。Society5.0 時代への転換を見据え、高等教育機関等における AI・数理・データサイエンス教育等に関わる論文に加え、リカレント教育も含めた、今後の「Society5.0」に向けた教育発展に寄与するオンライン学習の実践の論文を募集します。また、先行的な取り組みとしての情報教育（IoT を含むプログラミング、カリキュラム設計等）、さらに、遠隔医療、農業、建設業も含めた幅広い分野の教育において、先端技術（5G・ロボット・ドローン・ブロックチェーン等）の活用を見据えた人材育成の支援の取り組みに関する教育システムの論文も広く募集いたします。

2. 論文種別

すべての種別(一般論文, 実践論文, ショートノート, 実践速報)の論文を募集いたします。なお, 査読を通して, 異なる種別での採録となる場合があります。また, 内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web ページで確認してください。Web 投稿の際には、以下の点にご注意ください。

- 「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください。
- 特集論文研究会(2021年3月20日(土))で発表を行った方は、投稿情報入力の際に「事務局への連絡事項」の欄に、特集論文研究会での発表題目と発表番号を記載してください。

4. スケジュール

論文投稿締切： 2021年6月1日(火) (予定)
採録通知予定： 2021年11月上旬 (予定)
学会誌 掲載： 学会誌Vol.39, No.2, 2022年4月1日発行 (予定)

本特集号と同一テーマの研究会「特集論文研究会」を開催します。是非、ご発表・ご参加ください。詳細は、今後の最新の開催案内(<https://www.jsise.org/society/committee.html>)をご覧ください。

特集論文研究会： 2021年3月20日(土)
会 場： オンライン開催 (方式：未定 ※Zoom 等の遠隔会議システムの利用を予定)
発表申込 締切： 2021年1月下旬 (予定)
原稿提出 締切： 2021年2月上旬 (予定)

5. 特集号編集委員会

委員長： 瀬田 和久(大阪府立大学)
副委員長： 村上 正行(大阪大学)
筆頭幹事： 松田 憲幸(和歌山大学)
幹 事： 後藤田 中(香川大学), 田中 孝治(金沢工業大学)
幹事補佐： 近藤 伸彦(東京都立大学), 山元 翔(近畿大学)
委 員： 学会誌編集委員, 特集号編集委員

6. 問い合わせ

全 般： 後藤田 中(香川大学) E-mail: gotoda.naka@kagawa-u.ac.jp
Web投稿： 編集事務局
電話： 03-5389-6492
E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 株式会社国際文献社 長澤氏



Information and Technology in Education and Learning (ITEL) 論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

2002年から英文誌（The Journal of Information and Systems in Education）を発行してまいりましたが、4月1日より、日本教育工学会（JSET）との合同英文誌 ITEL (Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>)を立ち上げ、論文募集をはじめました。

この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。ITEL は、JSiSE 英文誌と同様、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。ITEL の Vol.1 は、2021 年 3 月開始を予定しております。

革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただければ幸いです。

- 論文種別：一般論文 (Regular Paper, 基本 8 ページ)、実践論文 (Practice Paper, 基本 8 ページ)
システム開発論文 (Development Paper, 基本 8 ページ)
ショート論文 (Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで)
<これまでのショートノート(Short Note)と実践速報(Report on Practice)を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
<JSiSE 英文誌と同様、投稿後、7 か月までには、採録の可否を決定・通知する予定です>
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領 (Authors Instruction) 等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。
 - 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
 - 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正 (Proofreading) を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
 - 査読者は 2 名 (Short Paper は 1 名) で、査読回数は 2 回となります (著者照会は 1 回のみ)。
 - 評価項目は、Originality (新規性)、Usefulness (有用性)、Reliability (信頼性)、Presentation (明瞭性) の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に、投稿論文の種別変更はありません。投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。



科研費申請支援制度（2020年度）のご案内

担当者： 人材育成委員会

教育システム情報学会では、次代を担う若手研究者の自立、研究活動の活性化を積極的に支援することを主旨として、科研費申請支援制度を試行します。本学会の理事等を中心に、当該分野の科研費審査や獲得経験を有する複数のシニア研究者（匿名）が、提出された申請書に対して、主張点や論旨の明確化、焦点化など、審査員に上手に伝えアピールする視点から、採択に向けたコメントを書面で提供するものです。申請書評価の多様な見方に触れて頂くためにも、学会としてまとめることはしないでコメントータからのコメントをそのまま提供します。これらを参考材料として申請者ご自身の判断の下で取捨選択しての申請書のブラッシュアップに役立てて頂く主旨のものです。（学会およびコメント提供者は採択に関する責任を負うことはできませんので、予めご承知ください。）

若手研究・基盤研究（C）および研究活動スタート支援を本制度の支援対象とします。主として以下の分野を対象にしますが、JSiSEが学際的な領域を対象にしていることから、他の分野でもできるだけ柔軟にお受けしたいと考えていますので、下記問い合わせ先までご相談ください。

- ・種目：若手研究・基盤研究(C)（ただし、2021年4月1日現在の年齢が40歳未満の方が対象）
 - ・研究活動スタートアップ支援

- ・分野：
 - ・「大区分A」「中区分9：教育学およびその関連分野」
 - ・09070 教育工学関連
 - ・09080 科学教育関連
 - ・「大区分J」「中区分62：応用情報学およびその関連分野」
 - ・62030 学習支援システム関連

- ・申請者は学会員であることが必要です。

スケジュールは以下の通りです。ご所属機関により提出時期が異なることを踏まえ、例年同様提出期間に幅を持たせています。

○エントリー

研究活動スタート支援：3月中旬～4月上旬頃

若手研究および基盤研究（C）：9月中旬～（受付中）

下記提出先まで電子メールにて、 代表者氏名 ・ タイトル ・ 応募領域 等の基本情報をお知らせください。

サブジェクトは「JSiSE 科研費申請支援」を含む文字列でお願いします。

※エントリーがなくても申請は随時受付いたしますが、事前にエントリー頂ければメンテーターに書類を迅速にお送りできますので、結果の返送も早くなります。

○申請書提出

研究活動スタート支援：3月下旬～4月中旬頃

若手研究および基盤研究（C）：9月下旬～10月上旬頃（受付中）

申請書のファイル（MS-Word または PDF 形式）を下記提出先までお送りください（予算明細などの詳細まで埋めていただく必要はありませんが、コメントを提供する観点からは、ある程度内容が固まっている段階でご提出いただくのが望ましいと思われまます）。提出いただき次第、メンテーターに申請書を送付します。

○コメントのお返し

【各メンテーターから提出があり次第、随時コメントをお返します。】

事前エントリーがあった場合申請書提出から1週間前後、ない場合10日前後の返信を予定しておりますが、事情により遅れる可能性もございますので余裕をもってお申込みください。

エントリー、申請書提出およびお問い合わせ先

人材育成委員会 (jsise-y-support@jsise.org)



2020 年度研究会開催スケジュール

2020 年度の年間スケジュールは下記のとおりです。

詳細は、学会ウェブページ (<https://www.jsise.org/society/committee.html>) を御覧ください

第 4 回 11 月 14 日(土) 和歌山大学システム工学部 (和歌山県和歌山市)

スキルや経験に関わる学習支援法や支援環境／一般

申込み締切：締め切りました

原稿締切：10 月 15 日(木)

第 5 回 2021 年 1 月上旬 (予定) 徳島大学 (予定)

実世界指向の教育学習環境／一般

申込み締切：未定

原稿締切：未定

第 6 回 2021 年 3 月中旬 (予定) 大阪教育大学 (予定)

一人 1 台時代の情報活用能力の育成／一般

申込み締切：未定

原稿締切：未定

特集 2021 年 3 月 20 日(土) 大阪教育大学 (予定)

Society5.0 に向けたオンライン学習および AI・数理・データサイエンスと
人材育成支援に関わる教育システム

申込み締切：2021 年 1 月下旬 (予定)

原稿締切：2021 年 2 月上旬 (予定)

研究会全般に関するお問い合わせは、学会事務局までお願い致します。



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000円(定例研究会年6回、特集研究会1回、計7回分を含む)
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いいたします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をしていた方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====
※研究会報告年間購読希望
会員番号 (お分かりであれば) :
お名前 :
所属 :
連絡先 e メールアドレス :
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

関東支部より活動報告

JASLA/JSiSE 関東支部 オンライントークイベントシリーズ 「質の高いオンライン授業に向けて～春学期の授業実施を踏まえて～」の実施報告

担当者： 関東支部 支部長 松居辰則（早稲田大学）

新型コロナウイルス感染対策のために、2020年度春学期には日本の大学等の96.6%がオンライン授業を実施しました（文部科学省調査より）。しかし、当初想定していた対面授業を急遽オンライン授業に変更したため、パソコン、ネットワーク、授業支援システム、授業実施方法などで様々な準備不足や混乱が生じました。多くの教員が半ば強制的に何とかオンラインで授業を実施した一方で、学生側には様々な不安やストレスが蓄積している状況がみられました。

そこでJSiSE 関東支部では、学習分析学会（以下JASLA）と合同で、「質の高いオンライン授業に向けて～春学期の授業実施を踏まえて～」という全4回のオンライントークイベントを開催しました。これは、産学実（産業界、大学、学校現場）が連携しながら「より質の高いオンライン授業を行うために必要なこと」を明らかにすることを目的としたものです。

各回を通じて、2020年度前期の授業準備状況・実施方法、学生の目線など様々な観点から、遠隔授業を考えることができる構成になっています。産学実の各分野の方々から短い発表をいただき、そののち参加者と発表者の自由な意見交換をオンラインで行いました。

以下、各回の実施概要を報告します。JASLAのWebページに発表映像や資料等のアーカイブもごさいますので是非ともご覧頂けたらと思います。

■第1回「オンライン授業の立ち上げと運用」2020年8月7日（金）

<https://jasla.jp/event/seminar015/>

2020年度春学期における、オンライン授業導入の経緯・授業準備・授業運営等に関して、上智大学、神戸常磐大学、早稲田大学、千葉工業大学における事例紹介がなされました。オンライン授業の実践事例や学習ツールの紹介のみならず、時系列情報に伴った各大学の準備状況や、教員や学生を対象とした支援体制やチーム作りまで様々な体験談やノウハウの共有が行われました。オンデマンドを中心とした授業での授業方法についての議論が多く見られました。

■第2回「オンライン授業に適したインフラやシステム」2020年8月21日（金）

<https://jasla.jp/event/seminar017/>

オンライン授業を実施するための基盤となるシステムやオンラインツールの運用、そして教員や学生のネットワーク環境などの技術面・運用面、そしてサポート体制を中心に自治医科大学、明海大学、帝京大学の事例報告がなされました。また、産業界よりデジタルナレッジ社よりオンライン授業導入におけるツールやノウハウについて情報提供がなされました。議論としては、ハイブリッド型の授業における大学の体制づくり、大学でのインフラについての議論が行われました。

■第3回「学生から見たオンライン授業」2020年9月4日（金）

<https://jasla.jp/event/seminar018/>

青山学院大学でのアンケートの紹介と、7名の学部生・大学院生による話題提供がなされました。学生からの話題提供では、講義形式の受講生、演習や実技科目の受講生、TAといった様々な立場から、関わったオンライン授業の利点や欠点、今後の大学やオンライン授業に対する期待などを話題提供して頂きました。コロナ禍の現在、オンライン授業に関する様々なイベントが開催されていますが、学生個人の意見を直接聞くことのできる機会は少ないためか、188名という多くの申込者があり、活発な議論がなされました。

■第4回「総合討論」2020年9月25日（金）

<https://jasla.jp/event/seminar019/>

第1回～第3回の議論を踏まえ、秋学期や来年度のオンライン授業をより「質の高い」内容や構成とするための知見や改善点を共有するために、明治大学、法政大学、千葉工業大学、電気通信大学の4名の先生方よりオンライン授業の事例、評価方法、対面授業と比べた長所や課題等に関する話題提供及び質疑応答がなされました。質疑では特に、試験におけるチーキングの問題やその対応策、そして質の高いオンライン授業の特徴に関する議論が多くなされました。オンライン授業の質の高さに繋がることとして、学生が自由な時間に繰り返し学習できること、データを多く取得することによる個別最適化した適応学習などが挙げられていました。最後に、学習分析学会長の田村先生より、後期の授業開始に伴い教育工学を専門とする先生方によるオンライン授業の知見の共有はとても有意義であり、継続していきたい意向を示されて結びとなりました。



Twitter アカウントの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局 (secretariat@jsise.org) へお願いします。また、Facebook アカウントとの連携も行っており、Facebook ページの投稿が Twitter にも流れますので、ぜひご活用 (フォロー) ください。

<https://twitter.com/JsisePr>

2020年9月28日現在、フォロワー数 248 アカウント



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会では Facebook ページを運用しています。本ページでは、

- ・論文・発表募集
- ・本学会に関連するイベントの情報

などを、いち早くお届けします。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

2020年9月30日現在、いいね 415 件、452 人フォロー





他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

- ・協賛「eラーニングアワード 2020 フォーラム」
日時：2020年11月11日（水）～2020年11月13日（金）
会場：オンライン開催
- ・後援「全国高等専門学校第31回プログラミングコンテスト」
日時：2020年10月10日（土）～11日（日）
会場：現地開催を中止し、課題部門と自由部門のみオンラインで実施
（競技部門については中止）
- ・後援「日本情報オリンピック」
日時：2020年6月19日（金）～2021年3月24日（水）



国際会議のご案内

- 2020年12月開催

IEEE TALE2020: IEEE International Conference on Teaching, Assessment,
and Learning for Engineering 2020

開催期間 : December 8 - December 11, 2020

開催地 : オンライン

URL: <http://tale2020.org/>

Conference Theme: Embarking On A New Era Of Learning With Transformative
Technologies

※JSiSE 会員には会議参加費の割引があります.

- 2020年11月開催

APSCE ICCE2020: 28th International Conference on Computers in Education

開催期間 : November 23 - November 27, 2020

開催地 : オンライン

URL: <https://icce2020.apsce.net/>



会費納入のお願い

会費納入についてのお願いです。学会の活動は皆様の会費で支えられていますので、2019 年度会費未納の方はご協力のほどどうぞよろしくお願い致します。なお、2020 年度会費納入のお願いをメールでお送りしましたので、併せてお願い致します。

「クレジット決済」、「コンビニ決済」をご希望の方は、下記のマイページよりお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱 UFJ 銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。

※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、**入会金を無料にさせて頂くというキャンペーン**を行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。(2020年7月22日～2020年9月18日)

会員名	会員種別	会員名	会員種別
三科 志穂	正会員	豊田 典子	正会員
和崎 克己	正会員	松井 久実	正会員
上継 竜生	学生会員	小森 公兵	学生会員
簡 珮鈴	正会員	武田 智博	正会員 (購読)
中村 しづか	正会員		

(計9名)

「学生会員特例」新設のご案内

2020年度より「学生会員特例」を新設することとなりました。
これは、研究生や博士後期課程単位取得退学者など、常勤の職がなく、
指導教員より継続的に指導を受けている会員を対象に、
通算3年を限度として会員種別を「学生会員」とする特例です。

(*)学生会員：大学院，大学，短期大学，高等専門学校，
およびこれらに準ずる学校に在学中の方。
会費は年額4000円／研究報告年間購読付きで8000円。

本特例が適用されるのは申請した年度のみです。
そのため、年度ごとに申請書を提出し理事会の承認を得る必要があります。
申請に際しては、指導教員の氏名、所属および連絡先を記入していただきます。
ただし指導教員に関しましては、本学会の会員・非会員を問いません。

本特例の適用を希望する会員の方は、学会 Web サイト「入会のご案内」ページにある
「関連書類」から「学生会員特例の申請書」をダウンロードしていただき、
必要事項をご記入の上、事務局（secretariat@jsise.org）までお送りください。

「学生会員特例の申請書」のリンク
<https://www.jsise.org/admission/index.html>

なお、非会員の方でも、上記の条件に合致する方は、
本特例を適用し新規の学生会員として入会することができます。
その場合は、「オンライン入会フォーム（正会員・学生会員用）」の通信欄に
必要事項を記入することで、本特例の申請を行えます。

ご指導されている方などで対象者がおられましたら、
本特例の件をお伝えの上、ぜひ本学会への入会を
ご推薦くださいますよう、お願いいたします。

上記「学生会員特例」に関しまして、ご不明な点等ございましたら、事務局までご連絡ください。